

船橋市野球協会少年学童部・大会特別規則

1. 投手に関する事項

(1) 投手の投球数は、1試合70球までとする。

1日に2試合行う場合についても、1日70球とする。

なお、特別延長戦における投球数も前述の投球数に含まれる。

また、投手が70球を超えて投球した場合、この誤りを発見した時点で、次の投手がアウトカウント並びにストライク及びボールカウントを受け継いで試合を続ける。

試合中規程投球数に達した場合、その打者が打撃を完了するまで投球できる。

ボークにかかわらず投球したものは、投球数に数える。

(2) 低学年大会においてはいずれも60球とする。

(3) 5年生以上の大会において、4年生以下が投球する場合も60球とする。

(4) 投手は初回（救援を含む）に限り、5球以内の準備投球が許される。

次回からは3球以内とする。

2. 捕手に関する事項

(1) シートノックの際に正規の捕手及び控え捕手ともヘルメット及び用具を身につける。

(2) 正規の捕手が用具を準備するために控えの捕手が準備投球をうける場合は、ヘルメットを着用するものとする。

3. グラウンドルールに関する事項

一塁と三塁の横に境界線を設けて試合を行う場合は以下のグラウンドルールを適用する

(1) 野手が飛球を境界線を越えずに正規に捕球した後、境界線を越えた場合は、ボールデットとなり走者は安全に一個の進塁が許される。

ただし、ダイビングキャッチを試み上体が境界線を越えた場合はボールインプレーとする。

(2) 打者走者を一塁でアウトにしようとした送球が境界線を越えた場合は、投手の投球当時の各走者の位置を基準として二個の塁を与える。この場合、外野手からの送球も含まれる。

4. 監督（30）およびコーチ（29、28）に関する事項

(1) 守備側の監督が選手に指示を与える場合は、ファールラインを越えてもよい。

(2) 監督およびコーチが、投手の投球練習の捕手（ブルペン含む）を行うことができる。

(3) 低学年大会に限り監督及びコーチが、ベースコーチをすることができる。

（B○x内に立てるのは1名のみ、指導者/選手2名立ちは不可）

5. 特別延長戦に関する事項

継続打順とし、前回の最終打者を一塁走者として、二塁、三塁の走者は順次前の打者とする。すなわち、一死満塁の状態にして1イニング行い、得点の多いチームを勝ちとする。

勝敗が決しない場合は、さらに継続打順でこれを繰り返す。なお、規則によって認められる選手の交代は許される。

特別延長戦を2イニング行っても勝敗が決しない場合は、抽選で勝敗を決する。

6. ボークについて

全ての大会において規則どおりペナルティーを適用する。

2013年 3月10日改訂

2016年 5月21日改訂

2017年 3月12日改訂

2019年 4月 1日改訂

2020年 4月 1日改訂

2022年 4月 1日改訂

2023年 4月 1日改訂